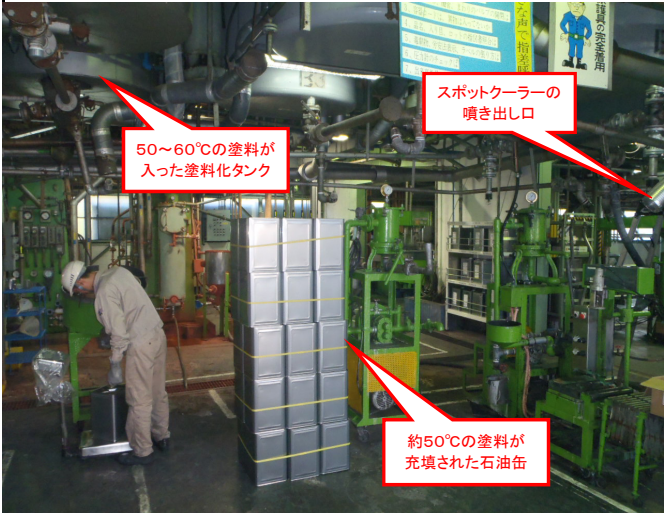


整理No. 2014-44		労働災害状況調査表				
災害発生場所		A-2工場				
災害発生日時		2013年 8月 6日(火) 13時 30分 天候(晴れ) 温度(32.0℃) 湿度(60%)				
災害区分		不 休 災害 休業災害(休業: 日)				
被災者	部門	第2製造課		雇用形態 <u>正社員</u> 、派遣、契約、その他()		
	年齢	26歳	性別: <u>男</u> 女	勤続年数 1年4ヶ月	経験年数 1年4ヶ月	
	傷病名	病名 (熱中症)				
	傷病部位					
災害発生状況	工場一階の充填場にて塗料を石油缶に充填する作業を行っていた。 適度に水分を摂りながら作業していたが、昼前くらいから頭痛を感じ、体調が悪くなっていた。 食欲はあったため、昼食をとり昼休み中は冷房の効いた部屋で横になって身体を休めていたが、頭痛に加え吐気の症状が表れ嘔吐した。 昼休み後も横になって身体を休めていたが、症状が改善されないため課長に報告し病院にて診察を受けた。約一時間点滴を受け、症状が改善されたのでそのまま帰宅した。			状況概略(写真orイラスト)		
				 <p>50~60℃の塗料が入った塗料化タンク</p> <p>スポットクーラーの噴き出し口</p> <p>約50℃の塗料が充填された石油缶</p>		
	災害の型 ^{※1)} 8. 熱中症			作業の形態: <u>定常</u> 、非定常、その他()		
	起因物: 加温された塗料			特記事項		
原因分類	1. 人的要因(man)・水分補給は行っていたが、塩分(ミネラル)は意識して摂取していなかった。					
	2. 物に関する要因(machine)・スポットクーラーの噴き出し口が作業場付近になかった。					
	3. 環境要因(media)・塗料粘度を下げるため50~60℃に加温したタンクの直下で、隣には約50℃の充填済み製品があった。					
	4. 管理的要因(management)・熱中症に対する教育及び指導が不足していた。					
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症対策として水分とミネラルを同時に摂取できるスポーツドリンクを推奨する。(水+塩飴でも良い) ・充填作業場近くにスポットクーラーの噴き出し口を設置する。(冷風で身体を冷やす) ・充填時のタンク温度を充填作業に支障が生じない範囲で5~10℃下げる。(雰囲気温度を下げる) ・熱中症予防に関する教育を実施する。 					
	対策分類 ^{※2)} : 1-4、1-6、2-4、2-6					
備考	類似箇所の摘出:					

※1) ①から選択

※2) ②から選択(複数可)